

トライやる 指導者に感謝状



10月第1週に、市立3中学校の2年生305人が、市内の事業所で就労を体験する『トライやる・ウィーク』に参加しました。

同事業は、今年で20周年を迎えたため、事業の実施期間に合わせ、加東市「トライやる・ウィーク」推進協議会から、生徒たちを長年指導いただいている指導ボランティアのみなさんに、感謝状が贈呈されました。

写真は、加東市社にあるパン店・アイガー社本店で、トライやる・ウィークの実施以来、20年連続で生徒の指導に協力されています。感謝状を受け取った同店店長の黒石知子さん（写真中央）は「学校の先生方から『学校では気付けなかった生徒たちのよい一面を見つけられる』と言われ、うれしく思っています。これからも、できる限り協力を続けたいです」と話しておられました。

多額の寄附をいただきました



安全带など、あらゆる工事用安全器具・安全工具のメーカーである藤井電工株式会社から、会社の設立65周年を記念して、

加東市へ5,000万円の寄附をいただきました。同社は、現社長藤井信孝さんの父・勉さん（故人）が河高地区内で創業。昭和27年に株式会社となり、現在は上滝野地区の本社・滝野工場、出水地区の社工場のほか、東京に支社、仙台・名古屋・大阪・福岡に営業所を置く企業へと成長されました。

藤井社長は「加東に育ててもらった企業なので、地域に恩返しをしたいと思います。安全・安心のまちづくりに役立ててもらえれば」と話しておられました。安田市長は「市民が安心して暮らせるまちづくりのために活用します」と答えました。

道の駅とうじょうに道路功労者表彰



9月29日、南山地区の道の駅とうじょうが、日本道路協会から道路功労者の表彰を受けました。この表彰は、道路を通じて地域活性化に貢献した個人や団体を称えるもの。道の駅とうじょうは、農産物をはじめ、釣り針・日本酒などの地元特産品を販売していること、公衆トイレが整備されており快適な運転に寄与していること、周辺の美化に努めていることなどが、表彰の決め手となりました。運営を担う株式会社夢街人とうじょうの社長・土肥富幸さん（写真左）は「新名神開通など、まだまだチャンスが多く、道の駅の展望は明るい。地域のみなさんとともに、今後もこの調子でがんばります」と話しておられました。

（この部分は上記のテキストと重複するため省略）

梶原地区 公民館が完成



梶原地区の新しい公民館が、9月末に完成し、この10月から、地域の活動拠点としての新たな一歩を踏み出しました。

旧公民館は、昭和7年の建築。集いの場として親しまれてきましたが、老朽化と地区住民の増加により、平成5年、建て替えに向けた準備が進められることになりました。以降、新たな拠点のあり方について、地区内で協議と模索が続けられてきました。

新公民館は、間仕切りで分割できる92.5㎡の大会議室のほか、アイランドキッチンを備えた調理室など、随所に工夫が凝らされたもの。区長の岸本清明さんは「多くの人に集ってもらい、より一層地区の団結を深められれば」と話しておられました。

兵庫県高齢者特別賞

長谷川純子さん（下滝野）



旧滝野町商工会や小野・加東保護区保護司会役員として地域づくりに貢献されたほか、滝野公民館や下滝野老人クラブでのサークル活動を通じ、地域の文化振興に現在も活躍されています。

乾杯まつり 酒造会社18社が集結



9月24日、社中央公園ステラパークで、加東市特産の山田錦を原料にした日本酒を楽しむ『加東市山田錦乾杯まつり』を開催しました。会場では、全国から集まった18の酒蔵が、自慢の名酒を1杯100円程度で提供したほか、愛好家垂涎の希少な銘柄を多数販売。会場を埋め尽くした過去最多・4,800人の来場者は、コップを片手に、酒蔵との交流を楽しみました。



また、やしろ国際学習塾では、酒場詩人として知られる吉田類さんによるトークイベント（加東文化振興財団主催）が開催されました。イベント中に『加東市産山田錦一日PR大使』を安田市長から委嘱された吉田さんは、トークイベント終了後、乾杯まつり会場に訪れ、鏡開きに参加したほか、各酒蔵のブースを巡りながら、トークを展開するなど、PR大使として精力的に活動し、会場中を盛り上げていました。

同日開催の山田錦探訪ウォークでは、山田錦がこうべを垂れる東条地域からまつり会場までの約11kmを223人が歩き、山田錦のふるさとを堪能しました。

秋まつり 市内各地で



佐保神社秋祭り (10月7日・8日)



春日神社秋季例大祭 (10月7日・8日)



牧野住吉神社秋祭り (10月7日・8日)



高岡稲荷神社秋祭り (10月7日・8日)



上鴨川住吉神社神事舞 (10月7日・8日)

赤ちゃんとおふれあい 命の大切さを学ぶ



10月3日、福田小学校で、乳児とおふれあいから命の尊さを学ぶ授業・赤ちゃん先生が実施されました。この授業は、赤ちゃんを先生とした体験学習で、授業を受けた同小の2年生19人は、1歳にも満たない赤ちゃんを抱いたり、あやしたりしながら、命や思いやりの心の大切さを学びました。

全5回の授業のうち2回目のこの日は、赤ちゃんに声をかけることがテーマ。児童らは、授業で、人にあたたかい言葉をかけると、自分もよい気持ちになることを学びました。授業を受けた古丸 吟さんは「赤ちゃんの顔を見ると、汚い言葉は使えないと思いました」と笑顔で話していました。

まちかど
トピックス

TOPICS

身近な話題など、お気軽にご連絡ください。
広報係がカメラを持って伺います。

☎43-0387